

特集

新連結中期経営計画

Oil & New

石油のすべてを。次の「エネルギー」を。



C's MAIL

シーズ・メール

 **コスモエネルギーホールディングス株式会社**

Vol.84 株主通信 2017年度
事業のご報告

平成29年4月1日～平成30年3月31日

ココロも満タンに



 **コスモ石油**



石油開発

長年の信頼関係を築いてきたアラブ首長国連邦(UAE)・アブダビ首長国、カタール国において原油の自主開発・生産に取り組んでいます。



石油精製・販売

産油国から大型タンカーで輸入した原油は、製油所でガソリン、灯油、軽油、重油などに生まれ変わり、全国のサービスステーションや工場などの需要家に販売しています。



売上高

2兆5,231億円

(2017年度実績)



原油埋蔵量

147.3百万バレル

生産エリア アラブ首長国連邦(UAE)・アブダビ首長国、カタール国
※確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計(2017年12月31日時点)



経常利益

1,169億円

在庫影響除き **959**億円

在庫影響とは
民間の石油会社では、法律に従って石油を70日分備蓄する義務があるため原油価格や為替の変動は、売上原価に大きな影響を与えます。この影響を除いたものを「在庫影響除きの経常利益」として開示しております。



製油所稼働率

94.1%

製油所 千葉、四日市、堺(2017年度実績)



石油化学

ポリエステル繊維やペットボトルの原料であるパラキシレン、ミックスキシレン及びプラスチックや合成ゴムの原料であるエチレンやプロピレン等の製造に携わっています。



再生可能エネルギー

エネルギー供給の多角化に向け、再生可能エネルギーに注力しています。グループ会社のエコ・パワー（業界シェア：発電能力国内第3位）では、風力発電事業の拡大を図っています。



原油生産数量

日量 **38,826** バレル

※生産数量は、主要開発会社であるアブダビ石油・カタール石油開発・合同石油開発の生産数量の合計

※各社12月決算会社のため、生産期間は1-12月で計算

※コスモエネルギーグループの出資比率：アブダビ石油51.5%、カタール石油開発75.0%、合同石油開発45.0%



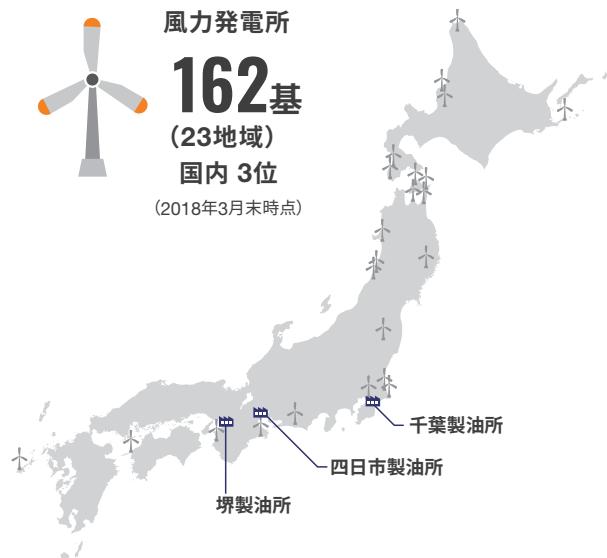
製油所及び風力発電所



風力発電所

162基
(23地域)
国内 3位

(2018年3月末時点)



サービスステーション数 個人向けカーリース累計契約台数

サービスステーション数^{※1}

2,858 箇所

個人向けカーリース
累計契約台数^{※2}

47,602 台

※1 コスモエネルギーグループ給油所数 (2018年3月末時点)

※2 個人向けカーリース (2018年3月末時点)

Oil & New

石油のすべてを。次の「エネルギー」を。

コスモエネルギーグループは未来に向かって、さらに一步を踏み出します。

2018年6月21日 代表取締役社長 桐山 浩

「脱化石燃料」の環境認識のもとに 事業ポートフォリオを移行する

当社グループを取りまく環境は、地球温暖化問題や電気自動車の普及等により大きく変化しております。長期的な事業環境をとらえ将来に向けた施策を進めていくことが、益々重要になってきます。こうした中、2018年3月に2018年度～2022年度まで5ヶ年の「第6次連結中期経営計画～Oil & New 2022～」(以下「新中計」)を発表いたしました。

新中計では長期的には石油製品の需要減(「脱化石燃料」)の動きは見込まれるものの、石油の価値は2030年までは健在であることを前提に、石油関連事業の競争力を強化しつつ、積極的な投資により再生可能エネルギー事業を新たな柱とする方針です。また、当社グループを「いい会社」、「続く会社」にすべく持続性の視点から十分な利益の計上を前提とし、世の中に役立つCSV(共通価値の創造)の視点を持ちSDGs[※](持続可能な開発目標)に貢献できる会社にしてまいります。

2017年度の業績について

前連結中期経営計画(以下「前中計」)の最終年度となる2017年度は、経常利益は前期比355億円改善の1,169億円、

親会社株主に帰属する当期純利益は前期比196億円改善の728億円となりました。なお、在庫影響を除いた経常利益は前期比539億円増益の959億円でした。石油事業は当社グループ製油所の安全操業・高稼働、及び国内の需給改善による適正マージン確保などにより増益、石油化学事業も製品市況の好調に加えて丸善石油化学のエチレン製造装置が非定修年であったこともあり増益となりました。石油開発事業においては原油価格の上昇により増益となりました。自己資本比率は前期末比3.3ポイント改善の14.1%、ネットD/Eレシオ(格付けベース)は前期末比1.3ポイント改善の2.3倍となりました。

新連結中期経営計画「～Oil & New 2022～」

新中計のスローガンである「Oil & New 石油のすべてを。次のエネルギーを。」についてご説明します。「Oil」とはまさに石油ビジネスのことです。

具体的な石油関連事業の施策としては、まず当社千葉製油所とJXTGエネルギー千葉製油所とのパイプラインを活用しシナジーを享受してまいります。次に船舶用燃料に対するIMO(国際海事機関)規制が適用される2020年よりも前倒しで、堺製油所の重質油熱分解装置(コーカー)を増強し、規制の対象となる高硫黄重油を生産しない体制を構築します。これにより

※ SDGs(持続可能な開発目標):2015年に国連で採択された2016～2030年の15年間で達成するために掲げた目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成される。

重油留分から軽油などを生産し収益油種の拡大を図ってまいります。これらの施策をふまえ、製油所競争力を強化し収益力改善に努めてまいります。また、前中計から投資を進めていたヘイル油田が2018年1月にピーク生産量に達しました。引き続き安全操業・安定生産を維持し投資回収を進め大幅な収益貢献を見込んでおります。

「New」とは石油以外のビジネスのことです。具体的な施策としては、未来に向けて主に再生可能エネルギーの拡大や石油化学事業へ投資をしていきます。

これらの施策を着実に実行し新中計の最終年度となる2022年度は、連結経常利益で1,200億円以上、2022年度末の自己資本4,000億円以上、ネットD/Eレシオは1倍台前半の水準をめざしてまいります。

前中計ではヘイル油田開発など大型投資を実施いたしましたが、新中計では前中計比22%減少の正味3,600億円の投資を見込んでおります。投資を厳選しつつ、堺製油所のコーカー能力増強や、石油化学製品の高付加価値化、次代を担う事業として洋上風力サイトの開発など、競争力強化と成長投資を全体の約40%とし、積極的な投資を進めてまいります。

また、今回も新中計と連動する形で、新連結中期CSR計画を策定いたしました。CO₂排出量削減へ貢献するため、当社グループはわが国と同じく2030年度までに2013年度比26%削減を目標としております。その他にも製油所の安全対策の徹底、当社グループのガバナンス体制の強化等、ESGの観点に基づき策定しております。当社グループのみならず取引先を含むサプライチェーン全体で連結中期CSR計画を推進してまいります。

2018年度の見通しについて

新中計の初年度となる2018年度は、経常利益1,210億円、親会社株主に帰属する当期純利益570億円を見込んでいます。在庫影響を除いた実質的な経常利益は、前期比251億円増

益の1,210億円を見込んでいます。石油事業は千葉製油所パイプラインの活用、製油所の高稼働による収益向上を見込むものの原油処理に見合った販売の実施により前期比では減益、また石油化学事業についてはエチレン市況の下落を見込んだことや丸善石油化学のエチレン製造装置が定修年であることから、前期比では減益を予想しております。

石油開発事業は2018年1月からピーク生産量を維持しているヘイル油田により全体の生産量が増加するため大幅な増益を見込んでおります。

安定配当を基本に、さらなる株主還元をめざします

新中計における資本政策については、財務体質とのバランスを考慮しながら、成長投資、株主還元を進めてまいります。過去に原油価格下落や東日本大震災の影響等により毀損した財務体質を健全化させるため、まずは自己資本の厚みを確保したいと思えます。もちろん、厳しい時も応援いただいた株主の皆さまには、しっかりと、株主還元をしたいとも思っております。まずは、安定的な配当を基本に、経営目標に対する進捗と成長投資のバランスを考えながら、さらなる株主還元をめざしていきたいと思っております。

当社グループは品質の高い製品・サービスを安全かつ安定的に供給することでお客様にご満足いただき、株主、お客様、お取引先等、ステークホルダーの皆さまに対し「ココロも満タンに」していくことを使命としています。この使命を果たし続け、当社グループの持続的な企業価値の創造につなげてまいります。株主の皆さまには、今後とも末永くご支援いただきますよう、お願い申し上げます。



2017年度 1株当たり配当金

50円

新連結中期経営計画 2018年度～2022年度

Oil & New

石油のすべてを。次の「エネルギー」を。

コスモエネルギーグループは次の一歩へ。
石油ビジネスをコアにして、次の事業ポートフォリオを構築。

基本方針

- 1 再投資可能な収益力の確保
- 2 将来に向けた成長ドライバーの強化
- 3 財務体質の健全化
- 4 グループ経営基盤の強化



コスモエネルギーグループの3つのKeywords

新連結中期経営計画

KEY WORDS 1 IMO 規制

国際海事機関 (IMO) により2020年からは低硫黄でよりクリーンな船舶燃料の利用が求められます。

KEY WORDS 2 パリ協定

2016年11月に発効した温暖化対策の国際的枠組みです。これを受け日本では2030年度までにCO₂排出量を2013年度比26%削減する方針です。世界的に「脱化石燃料」の動きが加速することが必至となります。

KEY WORDS 3 再生可能 エネルギー

日本政府は2030年までに風力発電の割合を現在の約3倍まで増加させる方針です。洋上風力については陸上風力に比較して立地の制限が少なく、政府も普及に向けて法整備を進めています。

Oil 石油関連ビジネスの競争力強化

- 1 安全安定操業体制の磐石化
製油所の安全安定操業・稼働率の向上によりコスト競争力を強化いたします。
- 2 IMO規制対応
堺製油所の重質油熱分解装置(コーカー)能力を増強し、早期にIMO規制の対象となる高硫黄重油を生産しない体制を構築します。これにより重油留分から軽油など収益油種の生産拡大を図ってまいります。
- 3 ヘイル油田フル生産の継続
2018年1月からフル生産を継続するヘイル油田の安定生産・操業コストの低減により確実に投資を回収してまいります。



～Oil & New 2022～

経営目標2022年度



New

次の成長ドライバーの育成

1 石油化学製品の競争力強化と製品拡張

国際的に市場の拡大している石油化学製品に対して、基礎品の競争力向上や環境に左右されにくい機能品を拡充すると共に、石油精製とのシナジーを強化してまいります。

2 陸上風力発電事業の拡大

発電能力50万kW体制の早期構築をめざし、三重県・度会2期、岩手県・姫神及び和歌山県・中紀に加えて積極的に新規開発を進めてまいります。

3 洋上風力発電事業への進出

陸上風力事業で培った強みを生かしつつ、洋上風力発電事業に早期に進出し、リーディングカンパニーをめざしてまいります。



経常利益
(在庫影響除き)

1,200億円以上



自己資本
(自己資本比率)

4,000億円以上
(20%以上)



ネットD/Eレシオ*

1.0～1.5倍



温室効果ガス
排出量の削減
(2013年度比較)

2022年度 ▲16% (▲120万ton-CO₂)

2030年度 ▲26% (▲200万ton-CO₂)

※日本格付研究所の格付評価上、資本性が認められるハイブリッドローンについて、元本の50%を資本とみなした場合はネットD/Eレシオ(2015年4月1日実行のハイブリッドローン600億円の50%を資本に算入)



石油開発事業

Oil Exploration and Production Business

主な
グループ会社

コスモエネルギー開発
アブダビ石油／カタール石油開発
合同石油開発(持分法適用会社) 他

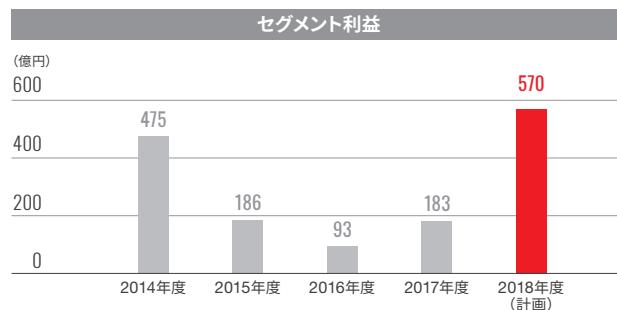
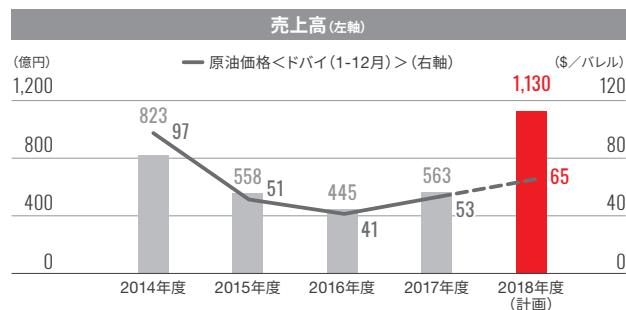
当期の概況

2017年度は原油価格(ドバイ:1-12月53ドル/バレル)の上昇に伴い、売上高は563億円(前期比118億円増収)、セグメント利益は前期比90億円増益の183億円となりました。

次期に向けて

2018年度は原油価格65ドル/バレル(前期は53ドル/バレル)、為替106円/ドル(前期は112円/ドル)を前提に、売上高は1,130億円(前期比567億円増収)、セグメント利益は387億円増益の570億円を計画しています。2018年1月にピーク生産量に達したヘイル油田の貢献及び、既存油田が安定操業することにより、生産量は2017年度比で約1.5倍に達し、1バレル当たり操業コストの大幅な低下が見込まれています。

	2017年度	2018年度(計画)
売上高	563 億円 (前期比 +118億円)	1,130 億円 (前期比 +567億円)
セグメント利益	183 億円 (前期比 +90億円)	570 億円 (前期比 +387億円)



石油事業

Petroleum Business

主な
グループ会社

コスモ石油 / コスモ石油マーケティング / コスモ石油販売
コスモ石油ルブリカンツ / 総合エネルギー
ジクシス (持分法適用会社) / キグナス石油 (持分法適用会社) 他

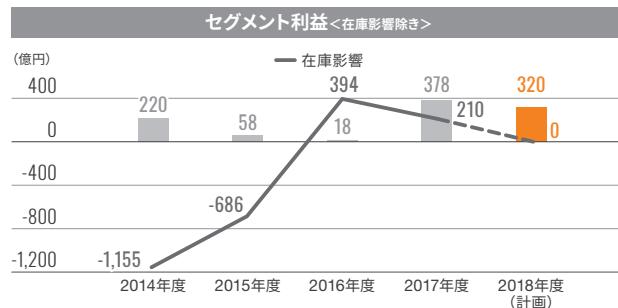
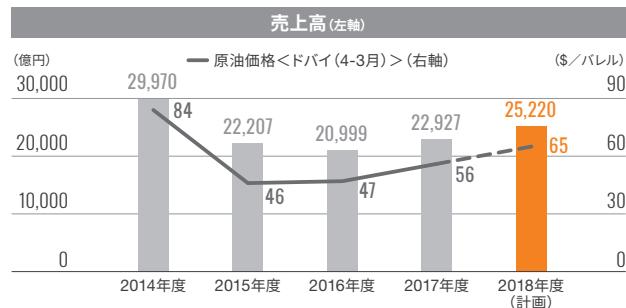
当期の概況

国内製品販売数量の増加等により、売上高は2兆2,927億円(前期比1,928億円増収)、在庫影響を除くセグメント利益は、製油所における安全操業・高稼働の実現に加え、業界再編や高度化法対応により国内需給が改善する中で適正マージンを確保したことにより前期比360億円増益の378億円となりました。

次期に向けて

2018年度の売上高は2兆5,220億円(前期比2,293億円増収)、セグメント利益は320億円(前期比268億円減益)を見込んでいます。千葉製油所パイプラインの活用、製油所の高稼働による収益向上を見込むものの原油処理に見合った販売の実施により在庫影響を除いた利益は320億円(前期比58億円減益)を計画しています。2020年頃を目途としたキグナス石油への燃料供給開始やIMO規制への早期対応など、石油事業の競争力強化に向けた取り組みを進めてまいります。

	2017年度	2018年度(計画)
売上高	2兆2,927億円 (前期比 +1,928億円)	2兆5,220億円 (前期比 +2,293億円)
セグメント利益 (在庫影響除き)	378億円 (前期比 +360億円)	320億円 (前期比 △58億円)





石油化学事業

Petrochemical Business

主な
グループ会社

丸善石油化学/コスモ松山石油/CMアロマ
ヒュンダイ・コスモ・ペトロケミカル (HCP) (持分法適用会社) 他

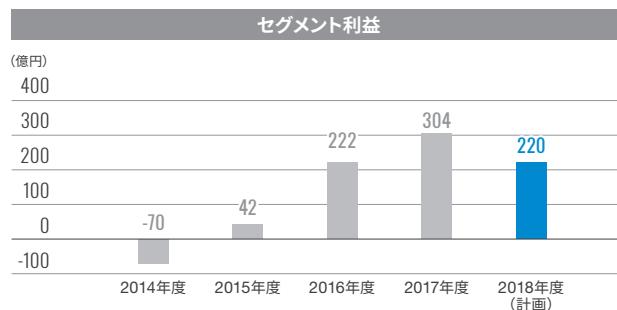
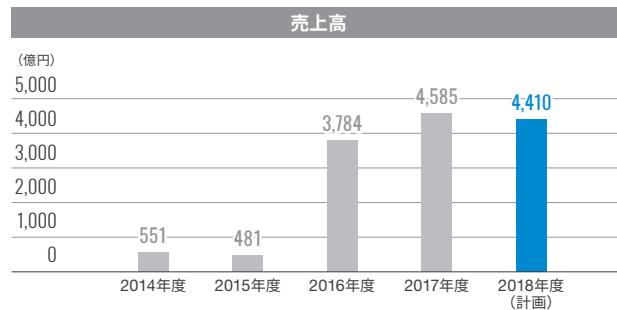
当期の概況

2017年度は市況が堅調であったことに加え、丸善石油化学のエチレン製造装置が定修年でなかったことによる販売量増加により、売上高は4,585億円(前期比801億円増収)、セグメント利益は前期比82億円増益の304億円になりました。

次期に向けて

2018年度の売上高は4,410億円(前期比175億円減収)、セグメント利益は220億円(前期比84億円減益)を計画しています。エチレン市況の下落を見込んでいることや丸善石油化学のエチレン製造装置が定修年であることから前期比では減益を計画しています。引き続き石油精製事業とのシナジー、基礎化学品の高付加価値化及び、機能品の事業拡大などを進めてまいります。

	2017年度	2018年度(計画)
売上高	4,585 億円 (前期比 +801億円)	4,410 億円 (前期比 △175億円)
セグメント利益	304 億円 (前期比 +82億円)	220 億円 (前期比 △84億円)





その他事業 (再生可能エネルギー事業)

Other Business

主なグループ会社 エコ・パワー／コスモエンジニアリング
コスモトレードアンドサービス 他

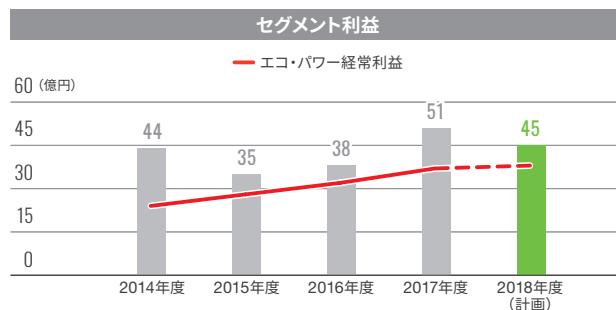
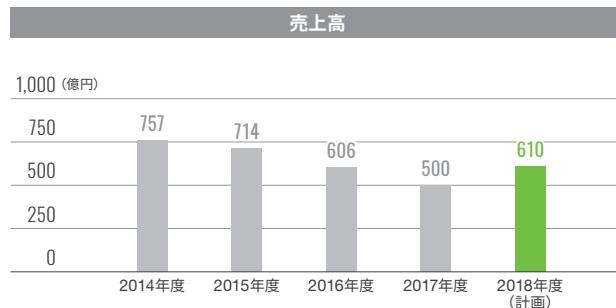
当期の概況

2017年度の売上高は500億円(前期比106億円減収)、セグメント利益は前期比13億円増益の51億円となりました。風力発電事業を手掛けるエコ・パワー社における発電能力は、2017年10月の山形県・酒田港宮海、大浜風力発電所及び2018年2月の北海道・石狩湾新港風力発電所の運転開始により、約2万kW増加の約23万kWとなりました。

次期に向けて

2018年度の売上高は610億円(前期比110億円増収)、セグメント利益は45億円(前期比6億円減益)を計画しております。発電能力50万kW体制の早期構築をめざし、2019年度上期に運転開始予定の三重県・度会2期、岩手県・姫神及び2021年度上期運転開始予定の和歌山県・中紀等の陸上風力発電所の建設を進めてまいります。また、洋上風力発電事業の早期運転開始に向け事業計画の策定、環境アセスメント等を進めてまいります。

	2017年度	2018年度(計画)
売上高	500億円 (前期比 △106億円)	610億円 (前期比 +110億円)
セグメント利益	51億円 (前期比 +13億円)	45億円 (前期比 △6億円)





コスモ石油エコカード基金

島山重篤さんトークライブ!

当社グループでは、「ずっと地球で暮らそう。」を合言葉に、コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」とコスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」会員(以下、エコカード会員)の皆さまと共に、コスモ石油エコカード基金を2002年4月にスタートし、国内外で地球環境貢献活動を展開しています。

2018年2月には、エコカード会員の皆さまを対象とした感謝イベントとして、エコカード基金のプロジェクトパートナー「NPO法人 森は海の恋人」の理事長であり、国連フォレスト・ヒーローズ*でもある島山重篤さんによる講演イベントを実施しました。

※国連フォレスト・ヒーローズとは

国連森林フォーラムが2011年の国際森林年に際し、世界中から森を守るため地道で独創的な活動をしている功労者を「フォレストヒーローズ」として顕彰したものです。アジア地域からは島山重篤氏のみが受賞しています。



野口健さん トークセッション

当社グループがTOKYO FM及び全国FM放送協議会(JFN)加盟局と共に展開している「コスモ アースコンシャス アクト」では、2015年度から「野口健 トークセッション」を開催しています。ホスト役として野口健さん、ゲストには同じく地球を舞台に様々な分野で活躍されている方を迎え、会場にお越しの皆さんと一緒に、未来に残したいモノ、残したくないモノ、私たち一人ひとりが何を残し、どのような未来を選んでいくかについて、熱いトークセッションを展開しています。2017年度のゲストは「侍ハードラー」でおなじみの為末大さんと、日本が世界に誇る建築家の安藤忠雄さん。熱いトークの様子は、「コスモ アースコンシャス アクト」のホームページよりビデオポッドキャストにて配信しておりますので、是非ご覧ください。

野口健トークセッション

<http://www.tfm.co.jp/earth/noguchi/>





第3回定時株主総会決議ご通知

2018年6月21日(木曜日)開催の当社第3回定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されましたのでご通知申し上げます。

報告事項

- 1 第3期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)事業報告の内容、
連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
- 2 第3期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)計算書類の内容報告の件 本件は、上記2件の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号 剰余金の処分の件

本件は、原案どおり承認可決され、期末配当につきましては、当社普通株式1株につき金50円と決定いたしました。

第2号 取締役(監査等委員である者を除く。)7名選任の件

本件は、原案どおり森川 桂造、桐山 浩、野地 雅禎、鈴木 康公、植松 孝之、ムサツバ・アル・カービおよびカリファ・アル・スウェイディの各氏(7名)が選任され、それぞれ就任いたしました。

第3号 監査等委員である取締役1名選任の件

本件は、原案どおり涌 健一氏が選任され、就任いたしました。

第4号 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

本件は、原案どおり松下 裕史氏が選任されました。

第5号 取締役(監査等委員である者を除く。)の報酬等の額改定の件

本件は、原案どおり取締役(監査等委員である者を除く。)の報酬等のうち基本報酬と賞与を合わせた金銭報酬を年額6億円以内(うち社外取締役5千万円以内)に改定することにつき承認可決されました。なお、取締役(監査等委員である者を除く。)の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まないものといたします。

第6号 取締役等に対する業績連動型株式報酬等の額および内容決定の件

本件は、原案どおり承認可決され、当社の取締役(社外取締役、監査等委員である取締役および国内非居住者を除く。)、当社の執行役員(国内非居住者を除く。)および当社グループの中核事業会社3社(コスモ石油会社、コスモ石油マーケティング株式会社およびコスモエネルギー開発株式会社をいう。)の取締役(社外取締役および国内非居住者を除く。)への報酬等として、株式報酬制度の導入を決定いたしました。本制度の導入により、連続する3事業年度を対象期間として設定する信託に対して、対象期間ごとに、合計9億円(うち当社分4億円)を上限とする金員を拠出し、当該信託を通じて、当社株式等の交付等を行います。



期末配当金の お支払いについて

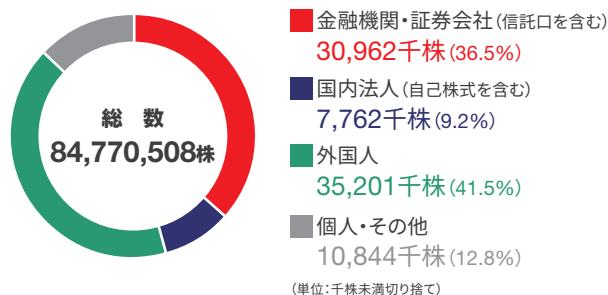
第3期期末配当金は同封の「期末配当金領収証」により、払渡期間内(2018年6月22日から2018年7月31日まで)にお近くのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りくださいますようお願い申し上げます。

また、銀行振込をご指定の方には、「配当金計算書」および「お振込先について」を、株式数比例配分方式をご指定の方には、「配当金計算書」および「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしましたので、ご確認ください。

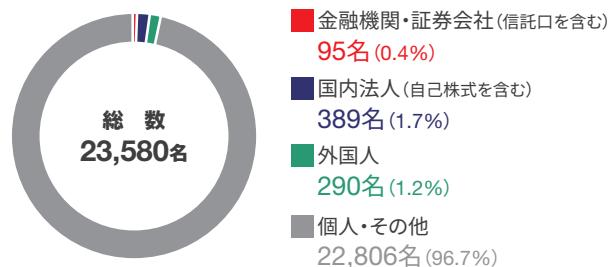
また、銀行に預金口座をお持ちの場合は、「期末配当金領収証」を当該銀行の窓口にご持参になれば、同口座へのご入金もできます。

以上

発行済株式



株主数



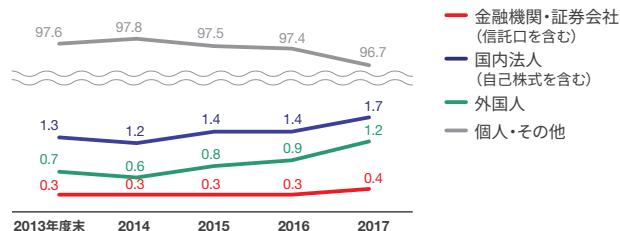
発行済株式数の所有者別推移

(単位:%)



株主数比率の推移

(単位:%)



大株主 (2018年3月末現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
Infinity Alliance Limited (インフィニティ アライアンス リミテッド)	17,600	20.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	6,430	7.59
株式会社みずほ銀行	2,522	2.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,351	2.77
MSCO CUSTOMER SECURITIES	2,204	2.60
関西電力株式会社	1,860	2.19
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	1,580	1.86
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,580	1.86
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,579	1.86
三井住友海上火災保険株式会社	1,567	1.85

※持株比率は自己株式を控除して計算しております。なお、自己株式には、「役員報酬BIP信託」により信託銀行が所有する株式は含まれておりません。

※2018年4月1日付で株式会社三菱東京UFJ銀行は株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しております。

会社概要

商号	コスモエネルギーホールディングス株式会社
証券コード	5021
本社所在地	〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号 電話 (03) 3798-3180
発足年月日	2015年(平成27年)10月1日
資本金	400億円
事業内容	総合石油事業等を行う傘下グループ会社の経営管理 及びそれに付帯する業務
沿革	1986年4月1日大協石油株式会社、丸善石油株式会社 及び両社の精製子会社である旧コスモ石油株式会社の 3社が合併し、コスモ石油株式会社が発足。 1989年10月1日アジア石油株式会社を合併。 2015年10月1日コスモエネルギーホールディングス 株式会社が発足。
主要 取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三菱UFJ銀行 株式会社三井住友銀行

コスモエネルギーグループの主要データ

特約店数	219店
支店	東日本支店、関東支店、中部支店、関西支店、西日本支店
製油所	千葉、四日市、堺

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金 支払株主確定日	3月31日
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故、そ の他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経 済新聞に掲載します。 公告掲載URL http://ceh.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html
上場取引所	東証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

見通しに関する 注意事項

この「事業のご報告」に含まれる将来の業績などの記述は、現時点における情報に基づき判断されたものです。こうした記述は経営環境の変化などにより変化する可能性があり、当社としてその確実性を保証するものではありません。

サービスステーション

コスモSSのご紹介

ムラカタ株式会社
セルフ富士宮



総合的な対応力を高め、 信頼され、愛されるサービスステーションへ

セルフ富士宮は富士山に一番近い個人向けカーリースのビークルショップとして2017年9月にリニューアルオープンしました。当店の強みは、富士山を望むロケーションのすばらしさです。敷地も広いので給油や洗車もスムーズにご利用いただけます。ビークルショップとしてリニューアルオープンしてからは、想像以上のお問い合わせや、ご契約をいただいております。

店舗運営については、まだまだ手探りの状態ですがチームワークの良さを生かし、店舗一丸となって良い店づくりをめざしています。今後は、ビークルショップとしてお客様にご利用いただくことに加え、整備や車検、保険関係も含め、「車のことなら何でも相談できる」存在として、お客様から信頼していただける店舗にしていきたいと思っております。



所在地

静岡県富士宮市
宮北町7

営業時間

24時間営業

C's MAIL シーズ・メイ Vol.84

誌名『C's MAIL (シーズ・メイ)』には、「C (コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆さまに、心の通った情報を提供したいという当社グループの願いをこの名前に託しています。

発行

コスモエネルギーホールディングス株式会社
コーポレートコミュニケーション部 IRグループ

〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL (03) 3798-3180 FAX (03) 3798-3841

<http://ceh.cosmo-oil.co.jp/>



IRモバイルサイト

モバイルサイトへは、このQRコードからアクセスできます。



IRメールマガジンが、PCでも
ご利用いただけるようになりました

最新IRニュースをお届けいたします。下記URLにPCからアクセスのうえ、ご登録ください。

https://cosmooil.co.jp/ir_mail_magazine/

表紙写真について

堺製油所の重質油熱分解装置(コーカー)(左側)、三重県の度会ウインドファーム(右側)の様子。

2018年度から新連結中期経営計画が始まりました。石油関連事業の競争力を強化しつつ積極的な投資により再生可能エネルギー事業を新たな柱へと成長させていきます。

UD
FONT

